

～ 幸区の大規模災害発生時における帰宅困難者対策の取組について ～

2011.3.11 区内各駅・各所で帰宅困難者発生

幸区・・・震度5弱 首都圏の交通機関運休⇒約515万人の帰宅困難者発生
 川崎駅周辺・・・3,000人超が市要請施設へ避難
 ➢幸区内では「川崎市産業振興会館」を開放
 鹿島田駅・新川崎駅周辺・・・近隣小学校を避難場所とし急遽開放。約60人が避難
 その他 区内駅・企業等においても多数発生



川崎市直下の地震(M7.3)の被害想定

幸区⇒震度6以上、場所によっては震度7
 ●川崎駅前滞留者数 19,128人
 ●川崎駅以外の区内各駅でも3.11を上回る数
 ●都内、横浜市内からの徒歩帰宅者も多数発生(国道1号線沿線等)

幸区帰宅困難者対策ネットワーク協議会の設置(H25年3月)
 ●「顔の見える関係」による連携体制づくり
 ●想定シミュレーションによる対応策の協議・検討 の推進



川崎駅西口バスロータリー

目標⇒ ●駅周辺滞留者の安全確保及び混乱の抑制
 ●徒歩帰宅者に対する適切な情報提供

3.11の教訓から課題を抽出し、地域特性を踏まえた対応策について協議・検討

- ① 帰宅困難者対策ネットワーク協議会の設置
- ↓
- ② 「地域防災シミュレーション」の作成及び内容確認
- ↓
- ③ ②による現状の把握及び課題の抽出
- ↓
- ④ 対応策の協議・検討による行動ルールの策定
- ↓
- ⑤ ④に基づいた取組への着手及び訓練の実施
- ↓
- ⑥ 行動ルールの検証、取組及び改善点等の抽出



○ 発災時における協議会の連携による、帰宅困難者への的確かつ迅速な対応の実現

幸区地域防災シミュレーション

主に発災後2日間、概ね1ヶ月後までの被害状況、区災害対策本部、避難所の対応
 帰宅困難者への対応、JR・交通事業者の対応についてシミュレーション
 ○川崎市直下の地震M7.3発生 ⇒ 幸区の震度6以上、場所によっては震度7
 ○季節⇒冬 天候⇒晴れ 発災時刻⇒11時24分(昼前)
 ○幸区における死者数⇒156人 建物全壊⇒4,649棟

⇒協議会構成メンバーによる内容確認 及び 課題等の抽出

課題と対応策

1 帰宅困難者の発生が想定される主な箇所

①JR川崎駅(西口) ②JR鹿島田駅及びJR新川崎駅 ③国道1号線沿線

2 帰宅困難者が発生した場合の課題

- ① 情報共有・伝達方法
- ② 鉄道以外の交通機関からの帰宅困難者への対応
- ③ 徒歩帰宅者への対応
- ④ 停電時における各事業所の対応
- ⑤ 代替収容施設の確保、近隣避難所との連携
- ⑥ 災害時用備蓄物資等の調達

3 幸区版「大規模災害発生時における帰宅困難者対策のための行動ルール」の作成

⇒ 川崎駅周辺だけでなく、鹿島田駅・新川崎駅周辺及び国道1号線沿線における対応を想定したもの

今後の取組

平成26年度の取組

1 幸区災害対策協議会帰宅困難者対策部会(←幸区帰宅困難者ネットワーク協議会から改組)の開催

- ・年3回(7月・10月・2月)開催予定
- ・そのうち10月開催時に「鹿島田駅・新川崎駅周辺及び国道1号線沿線における帰宅困難者対策訓練」の実施
 - 部会構成員が関係機関・団体と連携し、情報伝達の体制や帰宅困難者一時滞在施設への誘導、一時滞在施設の開設・運営などに係る実働訓練を行う。

2 上記1の訓練の検証等による

幸区版「大規模災害発生時における帰宅困難者対策のための行動ルール」の見直し